

報道関係 各位

2017年5月16日

株式会社日本レースプロモーション

5月27日(土)～28日(日)  
2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第2戦 岡山国際サーキット  
開催概要

株式会社日本レースプロモーション(代表取締役社長 倉下 明、所在地:東京都千代田区)は、5月27日(土)～28日(日)の2日間、岡山県美作市 岡山国際サーキットレーシングコース(1周:3.703km)において、「全日本スーパーフォーミュラ選手権」第2戦を開催いたします。

今大会は、土曜日にRace1の予選、決勝。日曜日にRace2の予選、決勝がそれぞれ行われる変則的なスケジュールとなっており、1日で予選と決勝の両方が見られることが特徴です。また、Race1とRace2では異なるフォーマットでレースが行われます。

27日(土)のRace1は、20分間の計時予選による公式予選と決勝レース30周(111.09km)、28日(日)のRace2は、Q2まで(Q1=20分間、Q2=10分間)のノックアウト方式(Q1:11位～19位、Q2:1位～10位が決定)による公式予選と決勝レース51周(188.85km)にて争われます。ポイントは、レース毎に通常のハーフポイントが付与され、各レースのポールポジションには、ドライバーにのみ1ポイントが付与されます。

開幕戦の鈴鹿大会は、シーズンオフのテストから好調であった中嶋 一貴(バンテリノ チーム トムス)が、ポール・トゥ・ウィンを決めて優勝を果たし、2位には、山本 尚貴(チーム・ムゲン)、3位に、国本 雄資(ピーエムユーセルモイニング)、4位 石浦 宏明(ピーエムユーセルモイニング)、5位 アンドレ・ロッター(バンテリノ チーム トムス)と、上位5台をチャンピオン経験者が占めました。一方で、活躍を期待されたピエール・ガスリー(チーム・ムゲン)やフェリックス・ローゼンクヴィスト(スノコ チーム ルマン)ら5名のルーキーは全員がノーポイントとなり、明暗が分かれた結果となりました。

第2戦の舞台となる岡山は、コース幅が狭く追い抜きが難しいため、予選の順位が非常に重要となりますが、ドライバー勝負となるスプリントレースのRace1に対し、Race2ではタイヤ交換が義務付けられているため、チームの戦略がカギを握ります。今回のレースフォーマットがいったい誰に有利に働くのか、シリーズ序盤の大勢を左右する注目の2レースとなります。



ポール・トゥ・ウィンでシーズン開幕戦を完勝した No37 中嶋一貴(バンテリノ チーム トムス)

Series Partner

**HONDA TOYOTA**

Series Supporter

**YOKOHAMA**

Promotion Partner

**HITACHI**  
Inspire the Next  
©日本オートモティブシステムズ

**SONY**  
Action Cam

**総 人気酒造**

Broadcasting Partner

**BSフジ J SPORTS**

## 公式予選

岡山国際サーキットレーシングコース(1周:3.703km)を、決められた時間内でタイムアタックを行い、スタート順を決定いたします。

今大会では、Race1、Race2それぞれで異なる予選方式が採用されています。

27日(土)は計時予選で行われ、20分間の中で全車が走行し、各ドライバーのベストタイム順にスタート順を決定します。

28日(日)はノックアウト方式で行われ、全車が走行する20分間のQ1で11位～19位のスタート位置を決定し、上位10台がQ2に進みます。10分間のインターバル後、10分間のQ2を行い、1位～10位のスタート位置を決定します。

尚、ノックアウト方式の名称は、予選にて好タイムが出なければその場でノックアウト(脱落)されることから、この呼称となりました。

## 決勝レース

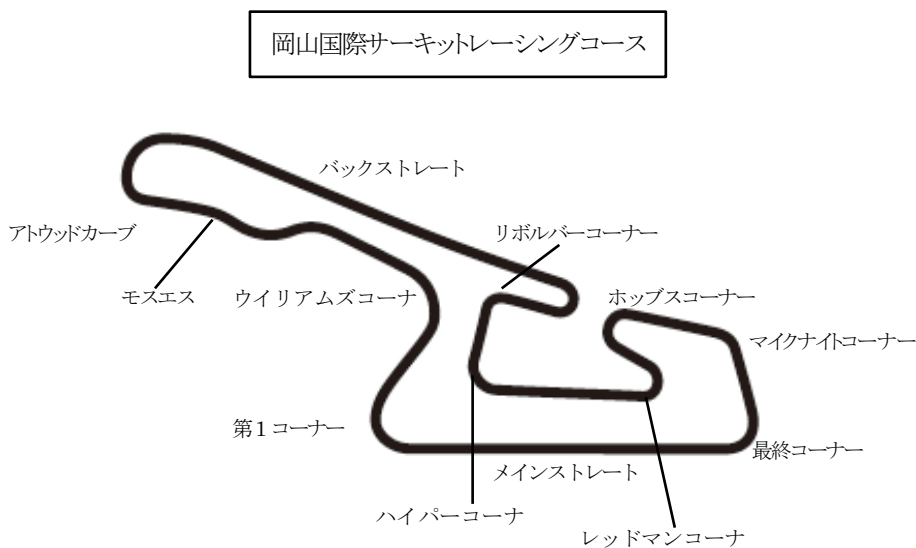
岡山国際サーキットレーシングコース(1周:3.703km)を27日(土)のRace1では、30周(111.09km)を走行し、28日(日)のRace2では、51周(188.85km)を走行し、順位を競います。

尚、Race2は、レース中において1セット(4本)のタイヤ交換が義務付けられています。但し、ウェットタイヤを装着してスタートした際には、交換義務は発生しません。

また、オーバーテイクシステムの使用は、Race1 および Race2 を通じて5回迄とします。

## 岡山国際サーキットについて

2本の長いストレートと大小13のコーナーからなるテクニカルコースで、各コーナーには往年の名ドライバーの名前がついている。迫力ある見どころとしては、スタート直後の1コーナー、ヘアピンからリボルバーコーナーの下り、Wヘアピン(レッドマン・ホップスコーナー)。コースと観客の距離が近く、コース全長3.7km、レースの迫力をより身近に感じることができます。



Series Partner

**HONDA TOYOTA**

Series Supporter

**YOKOHAMA**

Promotion Partner

**HITACHI** Inspire the Next  
©日立オートモティブシステムズ

**SONY** Action Cam

**総 人気酒造**

Broadcasting Partner

**BSフジ** **J SPORTS**

2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権第2戦 エントリーリスト

(車両:SF14、タイヤ:ヨコハマ)

2017年3月4日現在

Car No.	ドライバー名	生年月日	出身地	チーム名 (読み)	監督	エンジン
1	国本 雄資 Yuji Kunimoto	1990/ 9/12	日本/神奈川県	P.MU/CERUMO・INGING (ピーエムユーセルモイニング)	立川 祐路	TOYOTA RI4A
2	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	1981/ 4/23	日本/東京都			
3	ニック・キャシディ Nick Cassidy	1994/ 8/19	ニュージーランド	KONDO RACING (コンドーレーシング)	近藤 真彦	TOYOTA RI4A
4	山下 健太 Kenta Yamashita	1995/ 8/ 3	日本/千葉県			
7	フェリックス・ローゼンクヴィスト Felix Rosenqvist	1991/11/ 7	スウェーデン	SUNOCO TEAM LEMANS (スノコ チーム ルマン)	片岡 龍也	TOYOTA RI4A
8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	1987/ 4/30	日本/群馬県			
10	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	1986/11/20	日本/栃木県	REAL RACING (リアルレーシング)	金石 勝智	HONDA HR-417E
15	ピエール・ガスリー Pierre Gasly	1996/ 2/ 7	フランス	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	手塚 長孝	HONDA HR-417E
16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	1988/ 7/11	日本/栃木県			
18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	1986/ 9/13	日本/兵庫県	KCMG (ケーシーエムジー)	土居 隆二	TOYOTA RI4A
19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	1987/12/29	日本/東京都	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インパル)	星野 一義	TOYOTA RI4A
20	ヤン・マーデンボロー Jann Mardenborough	1991/ 9/ 9	イギリス			
36	アンドレ・ロッテラー Andre Lotterer	1981/11/19	ドイツ	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	舘 信秀	TOYOTA RI4A
37	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	1985/ 1/11	日本/愛知県			
40	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	1989/ 9/15	日本/茨城県	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモチームダンディライアンレーシング)	村岡 潔	HONDA HR-417E
41	伊沢 拓也 Takuya Izawa	1984/ 6/ 1	日本/東京都			
50	小暮 卓史 Takashi Kogure	1980/ 8/ 1	日本/群馬県	B-Max Racing team (ビーマックスレーシングチーム)	組田 龍司	HONDA HR-417E
64	中嶋 大祐 Daisuke Nakajima	1989/ 1/29	日本/愛知県	TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマレーシング)	中嶋 悟	HONDA HR-417E
65	ナレイン・カーティケヤン Narain Karthikeyan	1977/ 1/14	インド			

ホンダエンジン使用チーム:5チーム8台  
トヨタエンジン使用チーム:6チーム11台

Series Partner

**HONDA TOYOTA**

Series Supporter

**YOKOHAMA**

Promotion Partner

**HITACHI** Inspire the Next  
©日立オートモティブシステムズ  
**SONY** ActionCam  
ソニー株式会社  
**総 人気酒造**

Broadcasting Partner

**BSフジ** **J SPORTS**

## 2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 ポイントランキング

### ドライバーポイントランキング

順位	No.	ドライバー	ポイント	2017/4/22-23	2017/5/27-28		2017/7/8-9	2017/8/19-20	2017/9/9-10	2017/9/23-24	2017/10/21-22	
				SUZUKA Rd.1	OKAYAMA Rd.2-1	OKAYAMA Rd.2-2	FUJI Rd.3	MOTEGI Rd.4	AUTOPOLIS Rd.5	SUGO Rd.6	SUZUKA Rd.7-1	SUZUKA Rd.7-2
1	37	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	11	<b>11</b>								
2	16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	8	8								
3	1	国本 雄資 Yuji Kunimoto	6	6								
4	2	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	5	5								
5	36	アンドレ・ロツテラー Andre Lotterer	4	4								
6	10	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	3	3								
7	64	中嶋 大祐 Daisuke Nakajima	2	2								
8	41	伊沢 拓也 Takuya Izawa	1	1								
	18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	-	-								
	15	ピエール・ガスリー Pierre Gasly	-	-								
	7	フェリックス・ローゼンクヴィスト Felix Rosenqvist	-	-								
	19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	-	-								
	65	ナレイン・カーティケヤン Narain Karthikeyan	-	-								
	4	山下 健太 Kenta Yamashita	-	-								
	50	小暮 卓史 Takashi Kogure	-	-								
	40	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	-	-								
	3	ニック・キャシディ Nick Cassidy	-	-								
	20	ヤン・マーデンボロー Jann Mardenborough	-	-								
	8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	-	-								

\* 表中ポイント数字の **太字**: 優勝 下線: 予選ポールポジション

### チームポイントランキング

順位	チーム	ポイント	2017/4/22-23	2017/5/27-28		2017/7/8-9	2017/8/19-20	2017/9/9-10	2017/9/23-24	2017/10/21-22	
			SUZUKA Rd.1	OKAYAMA Rd.2-1	OKAYAMA Rd.2-2	FUJI Rd.3	MOTEGI Rd.4	AUTOPOLIS Rd.5	SUGO Rd.6	SUZUKA Rd.7-1	SUZUKA Rd.7-2
1	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	14	<b>14</b>								
2	PMU/CERUMO - INGING (ピーエムユーセルモインギング)	11	11								
2	TEAM MUGEN (チーム ムゲン)	8	8								
3	REAL RACING (リアルレーシング)	3	3								
4	TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマレーシング)	2	2								
5	DDCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモチームダンディライアンレーシング)	1	1								
	KONDO RACING (コンドーレーシング)	-	-								
	SUNOCO TEAM LEMANS (スノコチーム ルマン)	-	-								
	KCMG (ケーシーエムジー)	-	-								
	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インパル)	-	-								
	B-Max Racing Team (ビーマックスレーシングチーム)	-	-								

\* 表中ポイント数字の **太字**: 優勝

\* チームポイント: 各チーム(エンタラント)に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。同一チーム(エンタラント)に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。チームポイントには、ポールポジションのポイントは与えられない。

Series Partner

**HONDA TOYOTA**

Series Supporter

**YOKOHAMA**

Promotion Partner

**HITACHI**  
Inspire the Next  
©日立オートモティブシステムズ

SONY  
ActionCam

SONY-LEIGH  
総 人気酒造

Broadcasting Partner

**BSフジ**

**J SPORTS**

## —開催概要—

- 大会名称 : 2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第2戦 岡山国際サーキット
- 開催日程 : 2017年5月27日(土) 公式予選/決勝レース [30周]  
2017年5月28日(日) 公式予選/決勝レース [51周]
- 主催 : 株式会社 岡山国際サーキット  
アイダクラブ(AC)
- 公認 : 国際自動車連盟(FIA)  
一般社団法人日本自動車連盟(JAF)
- 認定 : 株式会社日本レースプロモーション(JRP)  
日本フォーミュラスリー協会(JF3A)
- 後援 : 岡山県 / 美作市 / 岡山県観光連盟 / 美作国観光連盟 / 岡山県経済団体連絡協議会 /  
岡山県商工会議所連合会 / 岡山県経営者協会 / 一般社団法人岡山経済同友会 /  
岡山県中小企業団体中央会 / 岡山県商工会連合会 / 山陽新聞社
- 同日開催 : 2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第2戦  
2017年 全日本フォーミュラ3選手権 第8戦 第9戦  
2017 N-ONE OWNER'S CUP Rd.7  
ロードスター・パーティレースⅢ 西日本シリーズ第2戦

Series Partner

**HONDA TOYOTA**

Series Supporter

**YOKOHAMA**

Promotion Partner

**HITACHI** Inspire the Next  
©日本オートモティブシステムズ

**SONY** Action Cam

**総** 人気酒造

Broadcasting Partner

**BSフジ** **J SPORTS**

## 【TV放映予定】

### ■ BSフジ 決勝戦生中継『2017スーパーフォーミュラ第2戦岡山』

番組では現地の臨場感をそのままお届けします。オフィシャルコメンテーター・ピエール北川と、アンバサダー本山哲の場内実況がサーキットの臨場感をリアルに伝え、ピットからはレース解説に定評のある松田次生と、今シーズンから初参戦の東(ひがし)美樹が、現場の緊張感をレポートします。

放送時間：2017年 5月28日(日) 14:00～15:55

### ■ BSフジ『スーパーフォーミュラ GO ON!』

番組では、注目のレース関係者や豪華ゲストを招き「人」をテーマにトークを展開、スーパーフォーミュラの魅力に迫ります。MCは小林可夢偉と中嶋大祐の現役ドライバー2人。その2人をピエール北川がサポートし、さらに乃木坂46の樋口日奈がナレーターとして華を添えます。加えて、レースダイジェストコーナーでは、ピットリポーター松田次生がトップドライバーならではの徹底解説をお届けし、東美樹が現地でアシストをします。

《放送時間》

第2回： 2017年 5月13日(土) 23:00～23:55  
           5月21日(日) 25:00～25:55(再放送)  
 第3回： 2017年 6月10日(土) 23:00～23:55  
           6月18日(日) 25:00～25:55(再放送)

### ■ J SPORTS

全7戦の予選と決勝の様様をライブ中継。再放送やレースダイジェスト番組もOALします。

第2戦 岡山国際サーキット

予 選 2017年 5月27日(土) 10:20～ J SPORTS 3 <生中継>  
 決勝レース1 15:00～ J SPORTS 3 <生中継>  
 予 選 2017年 5月28日(日) 9:10～ J SPORTS 3 <生中継>  
 決勝レース2 14:00～ J SPORTS 3 <生中継>

## 【映像の配信】

### ■ GYAO!

大会終了10日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドにて無料配信。

※配信日時に変更となる場合があります。

<http://gyao.yahoo.co.jp/sports/>

### ■ YouTube

予選ならびに決勝の競技映像をダイジェスト版にて当日夜配信。

※配信日時に変更となる場合があります。

詳しくは予選ならびに決勝日の夜、「スーパーフォーミュラ オフィシャルウェブサイト」(<http://www.superformula.net/>)でご確認ください。

superformulavideo-YouTube

<https://www.youtube.com/user/superformulavideo>

### 【インターネット／ SNS】

- スーパーフォーミュラオフィシャルWEBサイト  
<http://superformula.net>
- スーパーフォーミュラオフィシャルFacebook  
<https://www.facebook.com/superformula.official>
- スーパーフォーミュラオフィシャル twitter  
[https://twitter.com/SUPER\\_FORMULA](https://twitter.com/SUPER_FORMULA)

### 【チケット情報】

- 前売観戦券(2日間有効)  
大人1名:5,400円  
※中学生以下は保護者同伴に限り入場無料
- 前売りバドックパス  
土日通し  
中学生以上:9,720円
- ピットウォーク券(当日販売のみ)  
中学生以上:3,000円(各日)  
※別途観戦券が必要  
※当該日有効なバドックパス購入の方は購入不要です。

レースチケットのご案内(<http://okayama-international-circuit.jp/special/sf-2017/ticket.html>)をご参照ください。

\*この件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。  
株式会社日本レースプロモーション (<http://www.superformula.net/>)  
102-0074 東京都千代田区九段南2-3-25 平安堂ビル  
e-mail:media@superformula.net  
Tel:03-3237-0131 Fax:03-3237-0135

Series Partner

**HONDA TOYOTA**

Series Supporter

**YOKOHAMA**

Promotion Partner

**HITACHI** Inspire the Next  
©日立オートモティブシステムズ

**SONY** Action Cam

**ASAHI BEER** 朝日 人気酒造

Broadcasting Partner

**BSフジ** **J SPORTS**

## 【2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権参考資料】

### 1. 全日本スーパーフォーミュラ選手権とは？

純然たるレーシングマシンであるオープン・シングルシーターのフォーミュラカーによって競われる国内最高峰の自動車レースです。一般社団法人日本自動車連盟(JAF)が公認し、株式会社日本レースプロモーションのプロモートにより、1996年にフォーミュラ・ニッポンとしてスタート。2013年より名称をスーパーフォーミュラに変更し現在に至っています。

### 2. チャンピオンシップ

2017年全日本スーパーフォーミュラ選手権は、全7戦、日本全国6カ所のサーキットを11チーム(エントリー)、国内外の19名(19台)のドライバー(※1)が転戦しチャンピオンが争われる、アジア地域唯一の国際格式選手権シリーズです。

(※1)ドライバー:国内:13名、海外:6カ国(ニュージーランド、スウェーデン、フランス、イギリス、ドイツ、インド)6名

2017年全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ開催スケジュール

日程	ラウンド/サーキット	予選方式	決勝レース方式
4 / 22 ~ 23	第1戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	200 km
5 / 27 ~ 28	第2戦/岡山国際サーキット	計時予選/ノックアウト	2 レース制
7 / 8 ~ 9	第3戦/富士スピードウェイ	ノックアウト	250 km
8 / 19 ~ 20	第4戦/ツインリンクもてぎ	ノックアウト	250 km
9 / 9 ~ 10	第5戦/オートポリス	ノックアウト	250 km
9 / 23 ~ 24	第6戦/スポーツランド SUGO	ノックアウト	250 km
10 / 21 ~ 22	第7戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	2 レース制

2017年シリーズ選手権 ポイントシステム

順位	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位以下	pp
1大会1レース	10	8	6	5	4	3	2	1	0	1
1大会2レース	5	4	3	2.5	3	1.5	1	0.5	0	1

\*P.P.:ポールポジション(予選1位)には、ドライバーにのみ1ポイントが与えられます。チームポイントには加算されません。

\*1大会2レース制の場合、レース1、レース2共に1レース制の得点の半分が与えられます。

\*1大会2レース制の場合、最終戦に限りレース1、レース2の勝者には通常ポイントとは別に3ポイントが与えられる。

これによりポールポジション+2連勝で最大18ポイントが与えられます。

\*最終戦終了時点で、複数のドライバーまたはチーム(エントリー)が同一ポイントを獲得している場合は、高得点を得た回数が多い順に順位を決定します。

### 3. シリーズ賞典

シリーズ賞典として、年間チャンピオンドライバーには、株式会社日本レースプロモーションよりシリーズドライバーズチャンピオンカップと賞金が授与されるほか、自由民主党モータースポーツ振興議員連盟より同連盟杯が贈られ、観光庁より観光庁長官杯が交付されます。また年間チャンピオンチームには経済産業省より経済産業大臣杯が交付され、株式会社日本レースプロモーションより賞金が授与されます。

Series Partner

**HONDA TOYOTA**

Series Supporter

**YOKOHAMA**

Promotion Partner

**HITACHI** Inspire the Next  
©日本オートモティブシステムズ

**SONY** ActionCam

**総 人気酒造**

Broadcasting Partner

**BSフジ** **J SPORTS**



#### 4. レース車両

##### ◎シャシー

「クイック・アンド・ライト」をキーワードに開発されたSF14(イタリアダラーラ社製)を2014年より採用。  
この車両を採用して以来、レースの質が一気に向上した事から海外からの注目を集めるようになりました。

##### ◎エンジン

日本を代表する自動車メーカーであるホンダとトヨタが次世代エンジン開発に貢献するコンセプト=NRE(※2)に基づき開発したHONDA HR-417E、TOYOTA RI4A を搭載しています。

このエンジンの特徴としては「燃料リストラクター」(燃料流量規制システム)を全機装備し、燃料流量を一定にすることにより燃料をいかに効率良く活用しパワーに結びつけるかが、勝負の鍵となります。

厳しい開発競争の結果、効率の良さを図る“正味燃費消費率(BSFC)”、“正味熱効率”では市販ハイブリット車以上の性能を発揮しており、次世代エコエンジンの開発に貢献しています。

##### (※2)NRE エンジンについて

ホンダ、トヨタ、ニッサンが、環境技術とモータースポーツの面白さの両立に向けに決定したエンジン規定。

- ・気筒配列 : 直列4気筒
- ・排気量 : 2,000cc+ターボ
- ・燃料吸気方式 : ダイレクトインジェクション
- ・燃料流量制限 : 鈴鹿、富士大会… 燃料流量95kg/h  
その他大会……………燃料流量90kg/h

##### ◎オーバーテイクシステム

レースを盛り上げる一助として、オーバーテイクシステム(以下OTS)を2009年より採用しています。

このシステムは、スーパーフォーミュラが始めた仕組みです。

当該システムは、レースに於ける見せ場の一つである追い越しをより促すシステムです。

SF14のシステムは、各エンジンに装備されている燃料リストラクターを活用し、燃料供給量を一時的に増加させパワーを上げることができます。(※3)ステアリングにあるボタンを操作し、1大会につき5回、各20秒間使用可能となります。使用中は、ドライバーのヘルメット後方にあるランプ(オーバーテイクランプ=OTL)が点滅し、観客からも視認できます。

またポイントリーダードライバーは、その榮譽を称える意味から1台だけ赤色のランプ(名称:リーダーズレッド)を装着しています。

##### (※3)オーバーテイクシステムの効果について

- ・メカニズム : システム作動時に燃料流量を10kg/h増加させる
- ・効果 : 約60ps、10%の出力増
- ・ルール : 1回に20秒間作動、1大会で5回使用可能

##### ◎タイヤ

2016年シーズンより横浜ゴム製のワンメイク供給です。横浜ゴムのスーパーフォーミュラ用ADVANレーシングタイヤは、スーパーフォーミュラが要求するグリップ、耐久性、安全性などの厳しい目標に対し、高いパフォーマンスを発揮、レースの盛り上げに貢献しています。